

Le jour où le monde ne pourra plus nous nourrir.



これから
未来を生きるために
知っておきたい
テクノロジーのこと

世界が 食べられなくなる日

監督：ジャン＝ポール・ジョー
製作：ベアトリス・カミュラ・ジョー / ナレーション：フィリップ・トレン
パーカッション：ドゥッドゥ・ニジャエ・ローズ
〔2012年 / フランス / 118分 / 原題：Tous Cobayes?〕
協力：大地を守る会 生活クラブ生協



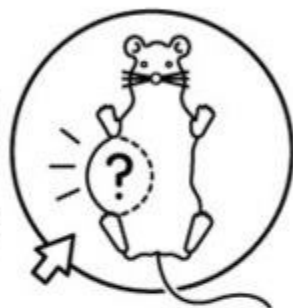
～原発と遺伝子組み換え～いのちの根幹を利用した二つの技術。
暴走するテクノロジーのその先に、どんな世界が待っているのだろうか？

異例のロングランヒットを記録した「モンサントの不自然な食べもの」に続く、
遺伝子組み換え食品の実態を追ったドキュメンタリー第2弾! (アップリンク配給)



遺伝子組み換え食品を食べ続けるとどうなるのか? 極秘に進められた研究に密着!

2009年、フランスである実験が極秘に進められていた。ラットの一生(2年間)に“遺伝子組み換えトウモロコシを与え続ける”と、どんな影響が起こるのか? 長年の疑問の答えが今明かされる。分子生物学者・セラリーニ教授が行った「世界的に重要な実験」はフランス、EUだけでなく世界中に大きな波紋を投げかけている。その研究結果にカメラは密着。



ジュース、ビスケット、冷凍食品、肉…、地球上の子供たちが、知らないうちに遺伝子組み換え食品を口にしています。スーパーに並ぶ加工食品の80%に、遺伝子組み換え作物が混在しているのです。私たちはどんな未来を選ぶか考えなくてははいけません。(本編より)

GM
実は、遺伝子組み換え
食品輸入大国の日本。

日本はトウモロコシの世界最大の輸入国で、その量は年間1600万トン。約9割がアメリカ産で、アメリカのトウモロコシは88%がGM品種です(2011年USDA調べ)。主に家畜の飼料をはじめ、食用油、コーンスターチなどの加工食品の原料に使われています。

セラリーニ教授
(カーン大学)

原発と遺伝子組み換え

~いのちの根幹を利用した二つのテクノロジーの意外な共通点

遺伝子組み換え作物と同時に描かれるのが「原発がある風景」。20世紀に生まれたこの二つのテクノロジーには実は密接な関係がある。世界2位の原発保有国であるフランス(58基が稼働中)は、常にリスクと隣り合わせである。日本で起こった福島第一原発事故以降、その地に住む農家がどのような影響を受けたのか。

「未来の食卓」「セヴァンの地球のおし方」で“食の重要性”を訴え続けるフランス人監督、ジャン＝ポール・ジョーがカメラを向ける。“原発”と“遺伝子組み換え”という、いのちの根幹を脅かす二つの技術の意外な共通点。そして浮き彫りにされるもうひとつの不都合な真実とは?

5月5日(日) 15:30~
5月12日(日) 18:00~
CHhomで封切前緊急上映決定
東京、名古屋、大阪、福岡4校のみ

アフリカの生きる伝説・パーカッション奏者、
ドッドゥ・ニジャエ・ローズが日本の和太鼓とコラボで
出演! 生命のリズムが大地に鳴り響く!!

